



祭禮囃子の由来
全

特35
800

014080-000-4

特35-800

祭禮囃子の由来

加藤 権兵衛/編

M28

ABB-0338



祭禮さいらい離子はやしの由來ゆらい

抑おさも神社祭典じんじやさいてんに於おて離子はやし及びおよ舞子まひことなす其元始そのもと及びおよ盛衰せいすいを記きするに當あたり先まづ前世音樂ぜんせいおんがくの最もつも至近しきんなるも例證れいじやうし以もつて起原きげんの概畧がいりやくを載のす是却これかへりて明瞭めいりやうよし敢あて贅言ぜいげんに非あらざるべし



元始もと前まへ



人皇にんわう三拾四代推古天皇だいすいこてんわうの御宇おんう秦川勝舞はたのかわかつまひと始はじめ又また三十三番さんじさんばんの面めんと造つくる七十三代堀川院だいほりかはいん永長元年えいぢやうげんねん京都きやうとにて田樂でんがく法師ほうしと云いふもの流行りやうこうす白河法皇院中しらかはほうわういんちゆうに召めして是これが伎藝ぎげい

と叡覽し賜ふ以上は斯伎の起原にして源氏物語宇治拾遺及古書に徴して明なり史に曰く「文治五年乙酉賴朝及妻政子詣鶴ヶ岡祠召靜命舞垂簾觀焉云々」中略す「此時工藤祐經槌鼓畠山重忠擊銅拍子云々」と是蓋し靜の舞ひは七拾四代鳥羽の院の御世永久三年乙未遊君嶋の千歳、若の前等の始めし所の女舞流にして噺子は後日祭禮噺子の起る兆となるなり然り而して以上の技藝は當時専ら大奥及び武士中に行はれ大に玩樂の具となれり而して以上の人等は斯道の達人なりぞ

同元始

建久三年七月賴朝征夷大將軍に任ぜらる於是賴朝鶴ヶ岡八幡を相摸國鎌倉雪の下に於て大に祭祀す朝野其美と盡して祭典す其華麗殷振言語の能く及ぶ所も非ざりしといふ殊に將軍治政の始め加之幕府の地たるを以て今人の餘想外なりしと推して知るべきなり是より先永久以降は古來の音樂大奥及武士の専ら玩弄する所となり居れり然るに彼の杉山の六騎と稱するもの即ち土肥次郎實平、同彌太郎遠平、土屋三郎宗遠、岡崎四郎義實、

足立藤九郎盛長及新開忠氏此六氏は斯道の所謂達人と
謂ふべきものなりき然るを以て此の大祭に與ると同時
に當時猶互に恙なきと祝し舊懷の餘り同情相求め五
人囃子の雜曲を奏し迭く且舞ひ且調曲せられし是則
祭禮に於て囃子及舞子のある原始とはなり而して其曲
節の美妙にして且勇ましく當時武士の嗜好に適せし故
一時に流傳せり又其曲を名命するに地名祭儀軍事都景
等を以てす而して今猶其名を存す即ち鎌倉國堅昇殿
大間昇殿、宮昇殿、破矢、師調目、能懸、都津波、宮鎌倉麒麟

麟、階殿、活光、等なり而して以上の六氏は皆万町以上
の領地を有し所謂大名なりしとは鎌倉武鑑等にも載す
る所なり是よりして上の好む所は下亦之に従ふ宜なる
哉相州一宮寒川神社を始めとして近在近郷ハ勿論祭禮
には必ず此囃子及舞子を奏調するとはなりぬ是より
傳播して殆んど天下に普く其流行盛大遂に其極を見ぞ
るに至りき

鎌倉三代及北條七代中の最も盛なりしが北條高時以后
足利氏末世迄は天下麻の如く亂れ戦争止む時なかりし

程なるを以て隨ひて神事祭禮を往々欠くに至れり是を以て大に斯道衰へり是時世の變化に伴ひ數の免かれざる所其浮沈敢て怪むに足らざるなり

同 徳川時代

天正十八年八月徳川家康江戸城に入り市街を開き邸第を設け諸神を祭るゝ當り斯道再挽回し漸々隆盛の緒を開けり然れども世の變遷に伴ふて古の流義とは大に趣きを異にせり是時世の然らしむる所言を待たざるなり而して他國の事實は暫く置き是より専ら江戸而已に係

る事を記せんと欲す

慶長八年八月家康征夷大將軍となりし以降慶應の末年に至る貳百六十五年間世の太平に伴ひ武藏國一の宮氷川神社、神田神社、芝神明、王子權現、澁谷八幡等の大祭には華車數輛を引き之を賑はすに必ず祭禮、獅子及舞子と附す而して時の將軍の上覽或は諸大名の賞覽ありしこと枚擧するに遑あらト又寛保元年及天明二年には鎌倉八幡宮の開帳を富ヶ岡に又龜井戸に於て享和二年に天満宮の九百年忌祭等此前後或は花車或は屋臺等に

於て此伎を演ず其盛大殷賑幾何なる素より比數なかり
き因りて當時の人天下一の祭と稱せしなり是當時の記
録と見ても決して誣稱に非ざるなきと知るべし
當時武士の歌舞伎と卑み其見物と禁ぜられしにも係ら
ず囃子及舞子は猶將軍及諸大名の上覽ありしは斯道の
最も名譽ある處なり如何となれば當時は古の如く上下
混同に非らず多く在野人士の伎に傾ければなり然れど
も猶諸大名及幕下の紳士にも亦斯道と好めるもの往々
是あり其主なる例と證として擧げば元松江藩主齊々殿

即ち楊光翁及有名なる大久保彦左衛門孫字鬼善兵衛氏
等は最も著名なり猶此他多しと雖紙數に限りあり且繁
累なるを以て省さぬ以上記載の祭禮に亞ぐものは飯
倉妻戀、三圍、龜井戸、富ヶ岡、牛の御前、府中六社、鷲明
神、愛宕、湯嶋、三輪明神等なり其他村落に至りては筆紙
の能く盡す所に非ざるなり是を以て至る處斯の曲調を
耳にせざるは無きに至れり誠に盛なりと謂ふべし如斯
なるを以て殊更江戸は天下の首府なる故斯道の盛大に
して且冠たると亦偶然ならんや然り而して斯く盛大な

ると以て是時に當り諸國の名人續々江戸に集り神田神社大祭には替違昇殿、神田丸、又龜井戸神社大祭には龜井戸の新曲調と奏始す等古今未曾有の大盛と極めたり故に世人天下祭りと稱せしなり而して文化時代は煎餅屋留七、神徒安五郎、神主増五郎の三氏等斯道の名人なりき而して最も破矢、横笛を能せしなり是より大井馬込の江の島、經堂の安宅崩谷山の矢車、金獅子、目黒の本間矢車、碑文谷の大幕、上目黒の本間崩、大平分の麒麟崩其他下り葉等の新噺子續々起れり以上記する所は斯道の

の主なるもの而已を擧げたる迄にして此間の大祭に關したる噺子は往々泰平記、及當時の雜書に明なるを以て茲に大略す若し是事と尋ねんと欲せば以上の書籍に附きて見るべし以上述ぶる處は慶應四年即ち明治元年迄の大略にして其寄着する處は古書に徴し又斯道の名人の遺書及高老の口傳并に口唱中最も確實なるものを集めたるものなり其誤脱は後の君子の教へを待つ故に敢て言語文字と毫も脩飾せず唯實事而已と記載すと云ふ爾

ふ爾

附言明治元年より今明治廿八年に至る間の事實は現在
 諸人士の明瞭に知覺し且其徵跡審に殊更肉体を以
 て聞視せられし故に載せず是記者の勞を省くのみ
 ならず亦權便ならん然れども明治の離子と稱する
 ものあり今是而已と擧ぐ即ち六郷の金澤昇殿及馬
 込の兩國並に大世話人の連戰勝傳是なり
 以上記する所の末端は専ら當部に係るものなり
 茲に同士と謀り部内有名人士の連名を加へ印刷し
 以て頒つ

于時明治廿八年

東京府荏原郡世田ヶ谷村字宮ノ坂

文化十二年

- | | |
|--------------|------------|
| 全 郡 全村字宮ノ坂 | 全 郡 全村字宮ノ坂 |
| 元 祖 大場増五郎 | 世話人 鈴木三郎 |
| 全 郡 全村字代田 | 全 郡 全村字代田 |
| 文政六年 | 世話人 吉澤力藏 |
| 二代目 師匠 館屋音五郎 | 世話人 堀江源太郎 |
| 全 郡 全村字經堂在家 | 世話人 大杉春吉 |
| 大世話人 石綿儀八 | 世話人 堀江金藏 |
| 全 郡 全村字若林 | 全 郡 全村字池尻 |
| 石綿幾太郎 | 世話人 落合八十八 |
| 松原兼吉 | 全 郡 松澤村字赤堤 |
| 世話人 河原善次郎 | 世話人 笈沼文藏 |

間簀德太郎
吉田鐵太郎

全 郡 全村字松原

世話人 上保初五郎

全 郡 全村字上北澤

世話人 鈴木新八

本郷與七

全 郡 駒澤村字深澤

世話人 目黒金太郎

全 郡 全村字上馬引澤

世話人 白井子之助

白井伊之助

宇田川鎌藏

大場夏五郎

全 郡 全村字野澤

世話人 横山兵太郎

根岸藤吉

根岸廣吉

全 郡 全村字三軒茶屋

世話人 西澤豊次郎

全北多摩郡千歲村字舟橋

大世話人 内海軍次郎

世話人 大瀬岩吉

内海伊勢松

鈴木鐵五郎

全 郡 全村字鳥山

世話人 杉田森吉

小家山子市

全 郡 全村字回澤

世話人 島田周三

宮澤 岡右衛門

全 郡 全村字給田

世話人 池龜喜四郎

全 郡 三高村字下仙川

世話人 田邊大助

田邊道之助

全 郡 全村字北野仙川

世話人 齋藤八五郎

全 郡 全村字新川

世話人 田中 忠右衛門

全 郡 全村字上連雀

世話人 山本茂平

全 郡 全村字無札

世話人 高橋治三吉

全 郡 郡神代村字澤代寺

世話人 内野長藏

全 郡 全村字山谷

世話人 澤邊三五郎

全 郡 全村字金子

世話人 遠藤元治郎

全 郡小足立村

世話人 富永半五郎

全 郡砧村元岡本

世話人 川島才次郎

全 郡 全村字大藏

世話人 井山茂三郎

全 郡 全村字喜田見

世話人 石井熊次郎

全 郡 早川増五郎

世話人 早川増五郎

神奈川縣橋樹郡幸村字戸手

大世話人 相澤國太郎

世話人 益門惣吉

全 郡高津村字坂戸

世話人 武笠新吉

全 郡 全村字溝ノ口

世話人 三田友吉

全 郡 全村字溝ノ口

世話人 噺子連中

全 郡 全村字下作延

世話人 大谷紋次郎

全 郡 全村字諏訪河原

世話人 中村録三

全 郡幸村字塚越

深山亦三郎

世話人 鳥養六右衛門

同 六三

同 彦藏

同 鐵太郎

同 常吉

全 郡 全村中原新上

世話人 石井近藏

東京府東多摩郡高井戸村字上宿

世話人 細淵喜三郎

世話人 柏木馬之助

全 郡 全村字原

世話人 木下三郎兵衛

全 郡 全村字正用

世話人 木下清市

世話人 内藤濱吉

全 郡 全村字大宮前

世話人 内藤傳次郎

全 郡 全村字大宮前

世話人 大石澤次郎

全 郡 全村字下宿

世話人 當間龍藏

世話人 大野太郎吉

世話人 河原文吉

全 郡 全村字下高井戸

世話人 川名菊藏

鈴木與吉

齋藤金次郎

全 郡井荻村字尾祖野井

世話人 田中甚藏

小美野平吉

全 南島郡代々木村

世話人 堀見小三郎

全 郡 豐澤

世話人 淺井清次郎

高橋秀次郎

佐々木 龜次郎

全 芝區伊皿子町

世話人 福岡仙松

全 區新堀町

世話人 高橋勇太郎

東京府麻布區廣尾町

文化十一年

元 祖 煎餅屋留七

全 荏原郡大井村

文政三年

發起人 倉本彦五郎

初代 師匠 倉本三五郎

天保八年

二代目師匠 倉本平次郎

全 大世話人 安田吉五郎

全 倉本銀次郎

倉本金五郎

安田德次郎

安田竹次郎

酒井幸次郎

明治三年

三代目 增山鈴吉

世話人 村田初五郎

倉本權次郎

增山仁三郎

村田市五郎

石黒吉五郎

明治廿四年

四代目 倉本與吉

倉本歙吉

倉本録三郎

安田豊次郎

秋本多藏

山本長次郎

增山多郎吉

增山吉五郎
 倉本富藏
 石黒梅太郎
 山本喜助
 村田増五郎
 平谷力藏
 増山淺次郎
 秋本政吉
 内藤孫次郎
 安藤市五郎

全 全郡 全村字倉田
 世話人

吉田太次郎
 宮本金次郎
 安藤兼次郎
 宮本熊次郎
 相原鶴吉
 白田惣吉
 齋藤徳次郎
 宮本兵太郎
 安藤長次郎
 増山八十吉
 瀧深和三郎

三代目 師
 世話人

平林米吉
 安藤金太郎
 大野文藏
 外五名

全 全郡 全村字濱川町
 天保八年
 發起人
 明治十年
 二代目 師
 安藤惣太郎
 神山辰五郎
 神山政五郎
 小池庄五郎
 吉田勝五郎

白田龜吉
 鈴木己之助
 内藤瀧五郎
 内田辨藏
 内田菊五郎
 渥見利七
 内田勘次郎
 染野與藏
 内田安五郎
 鈴木兼吉

全 全郡 全村御林町四丁目
 明治三年
 發起人
 世話人
 二代目

全 郡 全村字元芝

世話人 芝崎梅吉

全 芝崎角太郎

神山由藏

芝崎力藏

芝崎兼次郎

朝倉忠次郎

和田市五郎

東京府南豊島郡澁谷村字中澁谷

文化十三年

元祖 神徒安五郎

文政三年

二代目 師匠 鈴木喜太郎

天保八年

三代目 世話人 鈴木喜一郎

全 郡 全村字上澁谷

世話人 安藤三之助

全 荏原郡目黒村字中目黒

文政七年

發起人 山口榮次郎

二代目 世話人 山口秀次郎

全 郡 全村字五本木

世話人 島崎彌五郎

全 郡 全村字上目黒

世話人 梅澤又次郎

世話人 三輪政太郎

全 郡 郡玉川村字瀨田

發起人 西尾惣吉

大世話人 野崎辨藏

全 郡 全村字野良田

世話人 粕谷定吉

全 粕谷勘藏

全 粕谷富五郎

全 郡 全村字等々力

大世話人 野口吉五郎

世話人 鈴木捨次郎

全 郡 全村字下野毛

發起人 大島直吉

世話人 菅田勇藏

全 鈴木米作

全 吉村吉藏

全 鈴木初五郎

全 郡 全村字奥澤

世話人 八幡前米吉

岡田熊次郎

根岸幸吉

齋藤龜吉

全 郡 全村字下野毛

發起人 大島直吉

二代目

大島増太郎

世話人

大島淺次郎

全

原寅松

原初五郎

大島恒次郎

全

郡矢口村字古市場

世話人

小宮富士太郎

全

郡 全村字下丸子

世話人

鎌田長次郎

横笛

平川重吉

力子

小宮菊次郎

平川竹次郎

全

郡碑倉村字碑文谷

世話人

島平藏

島鍋次郎

力子

高林徳次郎

杉本市太郎

全

郡 全村字羹

世話人

龜井彌三郎

小杉仙太郎

栗山伴藏

青木由五郎

栗山熊太郎

全

郡平塚村字中延

發起人

野村傳藏

二代目

高橋勘次郎

大世話人

古原虎之助

全

野村熊次郎

世話人

漆原藤五郎

全

高橋金次郎

全

渡邊政太郎

全

野村龜藏

全

郡 全村字戸越

世話人

鈴木權次郎

松澤島太郎

相原銀次郎

河野作次郎

全

郡 全村字小山

横笛

石井寅次郎

大世話人

石井彌市

世話人

海老澤源次郎

石井藤次郎

海老澤吉五郎

全

郡大崎村字谷山

世話人

石井甚太郎

山本豊次郎

林 兼三郎

全 郡池上村字久ヶ原

世話人 篠澤源太郎

全 中島惣五郎

全 郡 全村字道々橋

世話人 伊勢寅吉

全 郡 全村字上池上

世話人 森井徳次郎

全 森井源四郎

全 郡 全村字雪ヶ谷

世話人 飯田富五郎

飯田惣太郎

全 郡 全村字石川

橋本忠兵衛

全 郡 全村字堤方

大世話人 荒忠藏

鎌田定吉

櫻井助次郎

櫻井勇吉

櫻井民次郎

荒多三郎

全 郡 全村字徳持

世話人 指田豊吉

全 永野藤吉

全 郡 全村字市ノ倉

横瀬辰五郎

横溝吉五郎

全 郡 郡調布村字沼部

世話人 川西卯之助

全 廣瀬太郎吉

全 郡 郡平塚村字蛇窪

文政七年

發起人 高山平次郎

全 高山三之助

全 伊藤定次郎

全 高山音次郎

全 澤田與三郎

全 澤田仁三郎

小原市太郎

永野長吉

杉野作次郎

飯島藤三郎

飯島幸吉

永野富藏

澤田忠次郎

高橋勘五郎

小原甚五郎

發起人

矢部友吉

全

矢部兼吉

全

橋本常三郎

天保八年

二代目

平林作次郎

伊藤又三郎

細井四三郎

多賀國五郎

伊藤民次郎

安政元年

三代目

矢部吉五郎

橋本彦次郎

高山辨次郎

石井彌五郎

元治元年

四代目

矢部五郎兵衛

世話人

高山源藏

全

伊藤佐五市

高山九八

岸善五郎

伊藤彌十郎

明治廿四年

五代目

橋本倉吉

高山平五郎

二代目師匠

鈴木榮次郎

二代目師匠

平林綱太郎

外五名

馬込田生

平林丑之助

三代目

鈴木利助

鈴木忠藏

平林銀次郎

平林豐次郎

平林熊藏

平林庄三郎

鈴木次郎吉

全

全

郡入新井村字山王

發起人

鈴木元次郎

全

平林七之助

外五名

平林仙太郎

全カ子

加藤長藏

六十九歳

平村爲次郎

全柏子

金子善四郎

七十二歳

平林斧藏

全全

金子重次郎

六十八歳

磯部三樹造

全 郡 全村字八幡

大太鼓

白田藤次郎

七十二歳

上野安五郎

全 郡馬込村

大世話人

白田金太郎

文政七年

三代四代目

北村菊次郎

發起人

加藤權十郎

世話人笛

金子銀次郎

全

白田又左衛門

世話人

加藤幾次郎

天保八年

二代目師匠 白田文藏

七十二歳

加藤梅太郎

水間勝五郎

世話人

鈴木萬藏

マイコ

加藤己之吉

笛

金子平太郎

マイコ

山崎政次郎

金子藤太郎

全 郡南品川町

山崎豊次郎

金子鐵五郎

マイコ

嵯峨野治助

加藤與市

明治二十八年九月三日印刷
全 年九月七日發行

東京府荏原郡馬込村
千二百九十九番地

編輯兼
發行者 加藤權兵衛

東京府荏原郡馬込村
千八百五番地

印刷者 河原源十郎

東京市京橋區三十間
堀二丁目一番地

印刷所 明教社

（非賣品）



版權所有

